

平成30年度第13回講演会 記録

日 時	平成 30 年 10 月 27 日（土） 13 時～16 時		
会 場	此花会館 梅香殿		
講 師	アジア猛禽類ネットワーク会長 山崎 亨 先生		
演 題	びわ湖の森の守り神：風の精イヌワシと森の精クマタカ		
備 考	参加者数 153 名（会員 143 名、聴講 10 名）		記録 藤原雄平

はじめに

山崎先生（右写真）にとって田中 克先生は高校の先輩であること、猛禽類の観察に鈴鹿の山中を 42 年間にわたり巡り歩いてきたことなど、経歴を紹介された後、本題の講演に移られた。私達にとって、猛禽類の講演は初めてであったが、貴重な映像を駆使してのお話に魅了され、3 時間があっという間に過ぎ去りました。



【講演要旨】

1. 猛禽類は人類憧れの鳥：

精悍、勇壮、畏敬、強靱、威厳、高貴などにイメージされ、軍用機の名前にもよく使用される。（F15=Eagle ワシ、F16=Falcon ハヤブサ、MV-22=Osprey ミサゴなど）。またエジプトの天空神 Horus、ヒンズー教のガルーダ、仏教のカラなど神格化もされている。

子供の時から野鳥に関心があり、ほとんどの鳥を見てきたがイヌワシだけは見れなかった。鳥取県の氷ノ山に生息していると聞き、鳥取大学獣医学科へ進学、土日は中国山地で探鳥に明け暮れた。地図での探索から滋賀県にもいるのではと推測し、鈴鹿山中をつぶさに観察した結果、1976 年 3 月 24 日についてイヌワシを発見し、1978 年 5 月 7 日には滋賀県多賀山中で初めてイヌワシの繁殖成功を確認した。

2. 猛禽類とはなにか：

獲物、特に生きた脊椎動物を捕食する鳥類。メスがオスよりも体が大きい、視力は人間の 8 倍、強力な脚・爪、鉤状の嘴、卓越した飛行能力を持つ。寿命は長くイヌワシは 50 年。食物連鎖の頂点に位置するため環境の変化の影響を受けやすく、自然環境の指標生物でもある。一般に、大型種をワシと呼び、小型種をタカと呼ぶ。

3. イヌワシの特徴：

アメリカやモンゴルのイヌワシは草原地帯で生活するが、日本のイヌワシのハンティング場所は森林の自然解放地、広葉樹林、ギャップや林縁部など人為的解放地（伐採、炭焼き、茅刈り、採草）である。しかし、戦後に激変した日本の森林の現状はイヌワシの狩の場所を奪ってしまった。

分布は主に本州中部以北。時速 280 km の猛スピードで飛翔し、岩場の断崖に営巣する。日本のイヌワシは生息環境にエサが少ないことから小型であり、ペアでハンティングを行い、蛇をよく食べる。卵は 2 個生むが、ほとんど 1 羽しか育たず（日本はエサが乏しいため 2 番目のヒナは 1 番目のヒナに殺される。外国では 2 羽とも育つ）。鈴鹿ではかつて 6 ペアが見られたが、今は 1 ペアのみで絶滅の危機にある。森林が伐採されないためエサの捕獲場がないのが主原因。

4. クマタカの特徴：

北海道から九州まで広く分布。本来は南方系の鳥で、日本だけは北にも生息する。森林が多いため、巣も森林の大木に設営する。タヌキ、カケス、リス、トカゲなど何でも食べる。産卵数は 1 個で、巣立ちが遅い。イヌワシと違い森林を巧みに利用して生活し、鈴鹿では個体数が増加している。

5. 猛禽類保全のために：

(1) 時間軸の視点

40 年間にわたるイヌワシ、クマタカの継続的調査から、生息場所の植生の変化に大きく影響されることが明らかとなった。日本イヌワシ研究会の調査によると、1981 年から 2014 年の 33 年間で繁殖成功率は約 55% から約 11% まで漸次低下し、83 か所でイヌワシが消失した。鈴鹿では 6 ペアが 1 ペアになり 2010 年以降繁殖 0% であった。なぜ絶滅の危機に瀕したのか。近年森林が放置され、イヌワシの狩の場である伐採地がなくなったことが主要因である。したがってイヌワシを保全するには狩ができる森に戻し、維持管理することが重要である。クマタカについても同様である。

(2) 空間軸の視点

サシバ、ハチクマなど渡りをする猛禽類については、国境を越えた保護対策が必要となる。アジアには 121 種の猛禽類が生息し、そのうち 55 種が渡りを行う。フィリピン・ルソン島北部は、日本へ飛来するサシバの中継地となっている。日本でのサシバ個体数の減少に危機を覚え、現地を調査したところ、毎年 5 千羽もの密猟がなされていることが判明した。地元大学と提携して、サシバはココヤシの害虫コガネムシの天敵であるとのサシバ保護の啓蒙活動を展開した結果、2017 年には密猟がゼロとなった。

渡りを行う猛禽類の保護のために不可欠な認識と保全対策の啓蒙のため、アジア地域全域での人材育成とネットワーク構築が急がれる。

【参考】

講演中フィリピンサシバ保護エコツアーについて紹介されましたが、申込窓口は下記のとおりです。

■主催・企画 アジア猛禽類ネットワーク、(公財) 日本自然保護協会、(公財) 日本野鳥の会
(担当：自然保護室・施設運営支援室)

■旅行参加申込窓口 アルパインツアースervice(株)ネイチャリングツアー事業部

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-11 第 7 東洋海事ビル 4 階

電話：03-3503-2611(代)ファックス：03-3503-2613 E-mail: info-nature@alpine-tour.com

【感想】

講演演題の「びわ湖の森の守り神：風の精イヌワシと森の精クマタカ」とは、生態系ピラミッドの上位種である猛禽類は自然環境の指標生物であり、びわ湖の周囲の森にイヌワシやクマタカが多く生息することは、そこに豊かな自然があることを意味します。しかしながら現状はクマタカはともかく、イヌワシは 1 ペアしかいなく、ここ数年繁殖はなく絶滅寸前とのこと。鈴鹿山系など、びわ湖の森が戦後放置されたことが、猛禽類をはじめとする生態系に大きな影響を及ぼしていることがよくわかりました。びわ湖の森里湖を考える上で、猛禽類とその生息環境について関心を持つことの大切さをあらためて認識した講演会でした。

以上